

2 初めての複式学級

(1) 入門期の指導について

学習指導における留意点

ア 新学期が始まるまでに準備すること

- ・ 年間指導計画の見直し

類似する単元・題材は同じ時期に実施した方が効果的である。また、道徳などはA・B年度方式、総合的な学習の時間は異学年合同での学習も考えられる。年間指導計画を手直しするときには、管理職、教務、教科主任の先生に相談をしながら進めるのがよい。

- ・ 予定黒板の活用

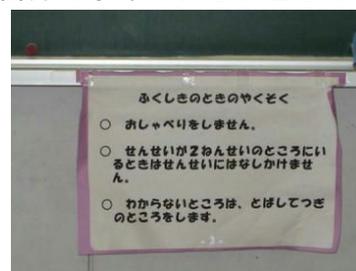
教室の予定黒板の学習内容、宿題などの欄にポスターカラーで線を入れ、2学年分書けるようにしておくことよい。特に低学年の児童は計画帳を書きやすくなる。

イ 新学期当初の取組

- ・ 複式の説明と約束

学習に入る前に複式の学習について説明し、約束することがらを伝える。約束は発達段階に応じて、内容や数を決める。特に教師が自分の学年にいないときは、絶対に教師に話しかけないことを徹底しておく。

約束は、前面に掲示したり、個人の学習ファイルに貼ったりしてよく見えるようにしておき、時間がかかっても必ず定着させることが大切である。そうしないと、間接指導の時間がいい加減になり、学習の効果が上がらなくなる



- ・ 間接指導

初めの時期の間接指導は、ワークシートやプリントなど個人で取り組めるものにしておく。慣れてきたら児童たちで学習が進められる手だてを取り入れていく。5月ごろには複式に慣れてくるので、学級の実態に応じて指導方法を変えていく。

- ・ 保護者への対応

学級便り、連絡帳などを利用して複式の授業の様子を伝えることが大切である。最初の参観日は複式の授業をするのがよい。

用意しておく便利な教具等

ア プラスチックのかごや個人用ファイル

児童一人に一つ用意しておく。漢字や計算のプリントをたくさん入れておく。間接指導で課題が早く終わった時や教師が出張した時の自習時間に使える。

イ 移動黒板やホワイトボード（できるだけ低い高さの物がいい）

低学年や配慮を要する児童は、他学年のことが気になって学習に集中できにくい場合があるので、移動黒板やホワイトボードを仕切り代わりに利用する。姿が見えなくなるので学習に集中できやすく、黒板や掲示板として授業にも利用できる。

複式の学習になれてきたら、仕切りを使わない時間を少しずつ増やしていくようにする。